

平成19年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

平成19年11月15日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成19年度中間業績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格の高騰等があったものの、好調な企業収益を背景とした設備投資の増加や雇用環境の改善等により、緩やかな回復基調で推移しました。他方、個人消費は、所得の低迷等により伸び悩みが続きました。

当社グループの中核をなす放送事業をめぐる環境は、日本民間放送連盟による平成19年度テレビ・ラジオ営業収入見通しによると、テレビが前年同期比1.9%減、ラジオが前年比6.3%減、そのうち中短波は6.2%減、FMは6.5%減と、依然として放送事業者にとって厳しい事業環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、FM放送とインターネット・携帯電話等のモバイルメディアを連携させたクロスメディア戦略による収益力の向上を図りました。しかし、前期下期より企画・制作事業においてイベントの主催契約関係の見直しを行なったことに伴い興行収益の計上額が減少したことが主な要因となり、当中間連結会計期間の売上高は134億1千4百万円（前年同期比16.7%減）となりました。これに対し、利益面では、当社および主要な子会社が営業利益で増益となったのに加え、前連結会計年度におけるのれんの一括償却により当期以降ののれん償却費用が減少したことによって、営業利益が5億7千3百万円（前年同期は5千万円）、経常利益が5億5千6百万円（前年同期は1千9百万円）といずれも前年を大幅に上回りました。また、中間純利益は、子会社における減損損失等による特別損失4億3千7百万円の計上がありましたが、9百万円（前年同期は2億6百万円の純損失）と前年より2億1千5百万円の改善となりました。

当社単独業績につきましては、売上高は89億3百万円（前年同期比22.0%減）、営業利益は4億4千2百万円（前年同期比27.7%増）、経常利益は5億4千5百万円（前年同期比5.3%減）、中間純利益は3億7千2百万円（前年同期比18.0%増）となりました。

<放送事業活動>

FM放送事業としては、人々のこころに感動と共感を引き起こす高品質な番組開発に力を入れ、「Melodious Library」では芥川賞作家小川洋子氏が文学作品を毎回1作品とりあげるという知的好奇心を呼び覚ます番組づくりが若い世代から高い共感と支持を得ました。また、ドラマ仕立ての番組「あ、安部礼司」が同世代男性リスナーの絶大な支持を得る等、「JET STREAM」や「SATURDAY WAITING BAR」に代表される高いクリエイティビティとFM放送らしさを兼ね備えた番組が新たに誕生しています。その「JET STREAM」は、7月3日に放送40周年を迎えました。

番組連動のクロスメディア展開に力を入れ、前述の「あ、安部礼司」では番組公式 Web サ

イト、携帯サイト、携帯向け着ボイス、ポッドキャスト等の新サービスを開発、「SCHOOL OF LOCK!」や「Tapestry」等の人気ワイド番組のクロスメディア展開は、着実にリスナーの当社メディアへの接触時間を拡大しています。また、Web 独自展開として、文学作品をポッドキャストで配信する「ききみみ名作文庫」等、音声放送局ならではのコンテンツ展開も実施、これらの放送連動・非連動をあわせた当社 Web ページへのアクセス数は月間 1 億ページビューを突破するに至りました。

また、ニュース報道においては、選挙戦を通し FM ならではの若者の視点にたった報道を行ったほか、アメリカ発の情報番組「SAMURAI In The BallPark」を放送し好評を得ました。地上デジタルラジオ放送に関しては、メーカーやキャリアと 3 セグチップや受信機の開発を進めるとともに、ビジネスモデル開発のためニュービジネスフォーラムを主宰、120 社近い参加を得ております。

<企画・制作事業活動>

企画・制作事業においては、「アバ・ゴールド」「ブラスト！ブロードウェイバージョン」「ユーマインスペクタクル シャングリラⅢ」など、大型ステージエンタテインメント公演を実施しました。また、「浜崎あゆみ」「ミスターチルドレン」「レッドホットチリペッパーズ」など、国内外の数々の有名アーティストのコンサートを主催。スポーツ分野では、マンチェスター・ユナイテッドと浦和レッズの対戦「さいたまシティカップ 2007」を実施、6 万人近い観客を動員しました。その他、「JAL DREAM TOUR」「Audi Music meets Art」等、多彩な企画を展開する一方、今年で 18 回目となる「アースデー・コンサート」は、「Message to Blue Planet～未来の青い地球～のために今できること」を世界に向けて発信しました。また、6 年目を迎えた「GTF 2007」では、期間中 630 万人を動員しました。

映画事業では、「パッチギ！LOVE&PEACE」、「監督・ばんざい！」、「憑神」、「夕風の街 桜の国」等の作品を共同製作いたしました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

当社連結子会社であるジグノシステムジャパン株式会社は、主力の携帯電話向けモバイルコンテンツ事業に加え、高い技術力を活かした携帯向けサイトの構築・運営受注ビジネス等、業容の拡大に努めました。

<その他の事業活動>

出版事業では、「あ、安部礼司脚本集」、「アヴァンティ・カクテルブック 2」、「3 日で結婚できる女になる方法」等を出版したほか、音楽関連では、「米米倉庫 Vol. 3」、タワーレコードとの共同企画「オール・アバウト・ディスコミュージック」、「地球音楽ライブラリー松田聖子（改訂版）」等、話題の書籍を発刊しました。

以上

平成20年3月期 中間決算短信

平成19年11月15日

会社名 株式会社 エフエム東京 取引所
 コード番号 681045 URL <http://www.tfm.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)富木田 道臣
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務局長 (氏名)唐島 夏生 TEL (03)3221-0080
 半期報告書提出予定日 平成19年12月26日 配当支払開始予定日 平成19年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 19年9月中間期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月中間期	13,414	△16.7	573	—	556	—	9	—
18年9月中間期	16,106	△0.3	50	△79.5	19	△89.2	△206	—
19年3月期	32,534	—	611	—	496	—	△5,713	—

	1株当たり中間 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年9月中間期	10	14	—	—
18年9月中間期	△231	66	—	—
19年3月期	△6,394	90	—	—

(参考) 持分法投資損益 19年9月中間期 31百万円 18年9月中間期 △19百万円 19年3月期 △50百万円

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
19年9月中間期	46,917		28,362		50.4	26,413	98	
18年9月中間期	53,412		33,821		54.1	32,252	28	
19年3月期	47,787		28,526		49.4	26,322	20	

(参考) 自己資本 19年9月中間期 23,665百万円 18年9月中間期 28,909百万円 19年3月期 23,594百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					
	中間期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭
19年3月期	30	00	30	00	60	00
20年3月期	30	00	-	-		
20年3月期(予想)	-	-	30	00	60	00

3. 20年3月期の連結業績予想 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

通期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	29,485	△9.4	1,366	123.4	1,343	170.6	334	—	373	84

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 中間連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 19年9月中間期 900,000株 18年9月中間期 900,000株 19年3月期 900,000株

② 期末自己株式数 19年9月中間期 4,045株 18年9月中間期 3,645株 19年3月期 3,645株

(参考) 個別業績の概要

1. 19年9月中間期の個別業績（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年9月中間期	8,903	△22.0	442	27.7	545	△5.3	372	18.0
18年9月中間期	11,412	△3.6	346	5.9	576	38.0	315	36.4
19年3月期	22,812	—	947	—	1,112	—	△7,278	—

	1株当たり中間(当期)純利益	
	円	銭
19年9月中間期	413	44
18年9月中間期	350	40
19年3月期	△8,087	28

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
19年9月中間期	38,964		23,252		59.7	25,836	2	
18年9月中間期	46,484		30,225		65.0	33,583	40	
19年3月期	38,783		22,813		58.8	25,348	13	

(参考) 自己資本 19年9月中間期 23,252百万円 18年9月中間期 30,225百万円 19年3月期 22,813百万円

2. 20年3月期の個別業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	18,526	△18.8	936	△1.2	914	△17.9	502	—	558	61

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

中間連結損益計算書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	当連結中間期 (平成19年9月期)	前連結中間期 (平成18年9月期)	前期比 (%)
売上高	13,414,514	16,106,762	83.3%
営業費用	12,840,732	16,056,393	80.0%
売上原価	9,130,729	11,630,220	78.5%
販売費及び一般管理費	3,710,003	4,426,172	83.8%
(内のれん償却額)	64,604	426,101	15.2%
営業利益	573,781	50,369	1139.2%
営業外収益	114,806	66,117	173.6%
営業外費用	131,771	97,354	135.4%
経常利益	556,816	19,131	2910.5%
特別利益	22,155	97,394	22.7%
特別損失	437,371	108,909	401.6%
税金等調整前 中間純利益	141,600	7,616	1859.2%
法人税、住民税及び事業税	334,611	202,971	164.9%
法人税等調整額	△ 32,065	△ 2,395	—
少数株主利益	△ 170,031	13,448	-1264.4%
中間純利益	9,086	△ 206,406	—

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

概計中間損益計算書(単体)

平成19年4月1日～平成19年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	平成19年9月期 (H19.4.1～H19.9.30)	平成18年9月期 (H18.4.1～H18.9.30)	前年 同期比	予算比
売上高	8,903,842	11,412,714	78.0%	103.0%
営業費用	8,461,398	11,066,107	76.5%	102.7%
売上原価	6,103,754	8,321,031	73.4%	104.6%
販売費及び一般管理費	2,357,643	2,745,076	85.9%	98.2%
営業利益	442,444	346,607	127.7%	107.9%
営業外収益	213,929	293,546	72.9%	155.9%
営業外費用	110,588	64,043	172.7%	112.6%
経常利益	545,785	576,110	94.7%	121.6%
特別損失	6,034	119,405	5.1%	—
税金等調整前中間純利益	539,750	456,705	118.2%	120.2%
法人税、住民税及び事業税	183,601	115,940	158.4%	90.9%
法人税等調整額	△ 15,942	25,401	—	—
中間純利益	372,091	315,362	118.0%	150.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較営業収益内訳書（単体）

平成19年4月1日～平成19年9月30日

単位：千円

	平成19年9月期 (H19. 4. 1～H19. 9. 30)	平成18年9月期 (H18. 4. 1～H18. 9. 30)	前年同期比
売上高	8,903,842	11,412,714	78.0%
放送事業収入	7,497,518	7,601,821	98.6%
放送収入	5,174,234	5,548,260	93.3%
タイム放送料	3,768,885	4,054,835	92.9%
スポット放送料	1,405,349	1,493,425	94.1%
制作収入	1,066,892	1,104,372	96.6%
その他	1,256,392	949,188	132.4%
企画事業収入	976,188	3,380,088	28.9%
賃貸事業収入	284,512	235,917	120.6%
その他事業収入	145,622	194,888	74.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

43 期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

43 期	42 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ビデオプロモーション
4	4	アサツー ディ・ケイ
5	18	コスモコミュニケーションズ
6	7	毎日広告社
7	9	ガイアコミュニケーションズ
8	6	放送文化事業
9	11	京橋エイジェンシー
10	5	オリコム

<タイム>

<スポット>

43 期	42 期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	ビデオプロモーション
4	12	コスモコミュニケーションズ
5	6	放送文化事業
6	4	オリコム
7	11	第一通信社
8	18	オフィスフラッグス
9	5	アサツー ディ・ケイ
10	8	マッキャンエリクソン

43 期	42 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	3	毎日広告社
5	-	三晃社
6	4	京橋エイジェンシー
7	5	ガイアコミュニケーションズ
8	9	アイントエス・ビー・ビー・ディーオー
9	16	電通東日本
10	26	コスモコミュニケーションズ